

タイトル： 違うって楽しい！？

ファシリテーター（グループ）： 多文化共生

### 1：本ワークショップの要旨

あなたにとって「違い」とは何だろう？グローバル化が進むにつれ、日常の中でも異文化に触れ合う機会が増えてきた。しかし日本には「空気を読む」という文化が根付いているため、異文化間のコミュニケーションが妨げられている。このワークショップでは、違いを楽しむために一人ひとりが過ごしやすい環境について参加者と共に考えていきたい。「違いの先にある楽しさを一緒に探しませんか？」

### 2：本ワークショップの目的(共に考えたいこと、実現したいこと)

多文化共生社会を実現する1つの方法として、本ワークショップではコミュニケーションを取り上げる。コミュニケーションの本質は相手を理解し、伝えようとする姿勢であることを知ってもらいたい。そして、自文化を含む多様な文化を尊重し、言語にとらわれないコミュニケーション方法を参加者と共に考えたい。

### 3：本トピックをとりあげる理由

現在、日本の在留外国人数は288万人であり、今後も増えていくと予想されている。しかし日本には外国の文化を受け入れがたいという人が少なからず見受けられる。本トピックを取り上げる理由は、多文化共生社会を実現するにあたって身近にある多様性を尊重し、1人1人が生きやすい社会を目指すためである。

#### 4 : 担当の教員へのお願い

<事前>

<当日>

<事後>

## 5 : 活動過程

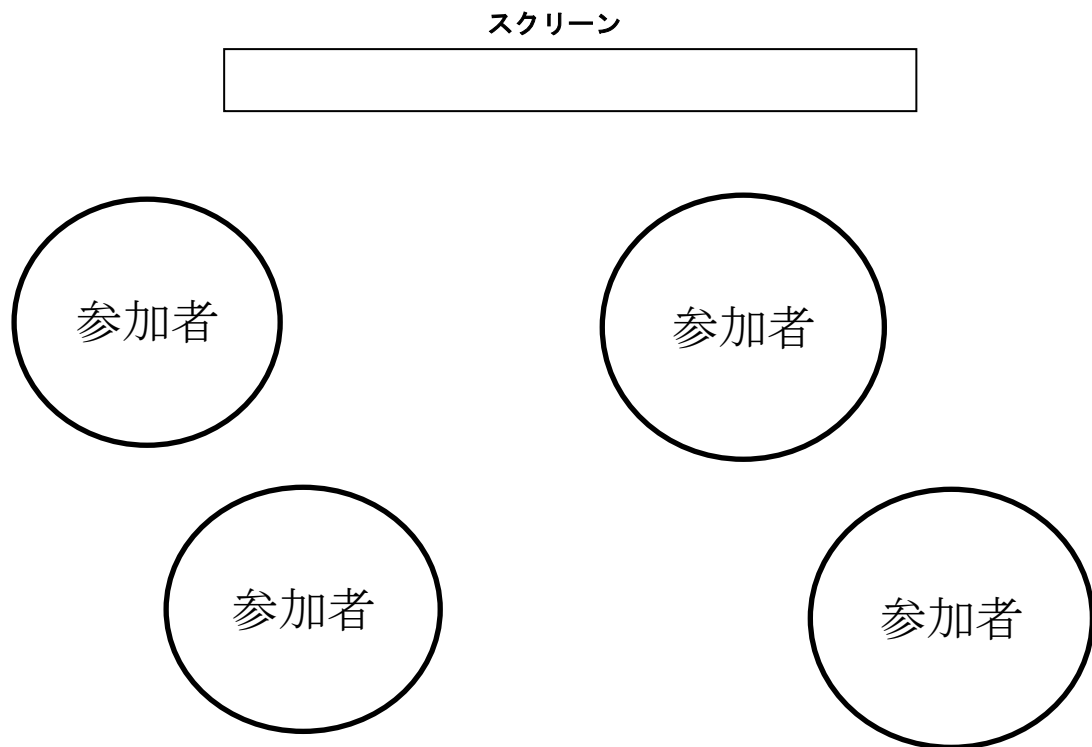
(使用時間 : 90分 参加人数 : )

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	注意事項
導入：起 (13分)	<p>ワークショップの場づくり</p> <p>挨拶 ルール説明 流れ説明 目的確認 (5分)</p> <p>アイスブレイク (ジェスチャーゲーム) (8分)</p>	<p>プロジェクター等の機材の設置、スクリーンを見やすい場所に配慮する、名札シールを配る、時間があつたら各チームで自己紹介</p> <p>新潟県に馴染みがある単語が書いてある紙を各グループに配り、1人ずつグループの中でそれを表現していく。表現者以外は、何を伝えようとしているのか感じ取り、単語を当てる。</p>	<p>使用する教室をワークショップに適した空間作りにする</p> <p>言葉以外でも自分の意志を伝えようとする姿勢を持ってもらう。</p>	<p>プロジェクター スクリーン パソコン ポインター 名札シール ストップウォッチ、ベル</p> <p>問題用紙</p>	<p>場づくり係 テーブル、いすの撤去など</p> <p>機材係 パソコン、スクリーンを設置</p>

<p>展開：承 (24分)</p>	<p>いざ!世界旅行🌐 (クイズや文化紹介) 台湾、インド、トーゴ、フランス等</p>	<p>世界旅行をしている設定で、訪れた各国の文化を劇やクイズを用いながら紹介する。また、日本の文化と何が違うのか比較し、感想を話し合う</p>	<p>世界の様々な文化を知り、カルチャーショックを体験する事で、参加者に「違い」を感じてもらおう</p>	<p>仮決定:模造紙、ペン、ポストイット</p>	
<p>休憩(5分)</p>					
<p>発展：転 (25分)</p>	<p>④アメリカへGO!</p>	<p>アメリカに来た設定で、各グループにお題となる紙を配る。お題の内容はアメリカ人に対する質問等。それを各グループがアメリカ人(他チームのチームファシリテーター)に伝えられるように方法を考えてもらう。日本語は通じないため、使えない。</p>	<p>日本語が通じなくても、ジェスチャーや、絵、現地の言葉など伝える方法はたくさんあること、そして伝えようとする事の大切さを学んでもらう。</p>	<p>問題用紙、紙、ペン</p>	

<p>まとめ : 結(15分)</p>	<p>「やさしい日本語」 に挑戦 (10分)</p>	<p>世界旅行から新潟へ 帰ってきたことを想 定し、在留外国人の人 たちへ“やさしい日本 語”を使った災害時 のアナウンスや地域 のイベント等を行っ てもらい、難しい日本 語から誰もが分かり やすい日本語への翻 訳をしてもらう。</p>	<p>日本語に不慣れな在 留外国人への呼びか けを分かりやすい日 本語を使って行って もらうことで、相手 に伝えようとする姿 勢を学んでもらう。 そしてこれからの多 文化共生社会を担う 一員として、誰もが 過ごしやすい地域づ くりに取り組むこと の大切さに気付いて もらう。</p>	<p>問題用紙、紙、ペ ン</p>	
<p>予備(8分)</p>	<p>まとめ 目的確認 (5分)</p> <p>挨拶</p>				

## 6 : 会場のセッティング



## 7 : 使用する教材

パワーポイント、パソコン、ペン、紙、模造紙、名札シール、付箋、ベル、ストップウォッチ、プロジェクター、スクリーン、世界地図、国旗、写真、イラスト

## 8 : 参考にした資料

### 《参考文献》

- 大崎正瑠 (2000) 『日本人の「国際化」感覚』 三一書房
- 金沢吉展 (1992) 『異文化とつき合うための心理学』
- 高城 玲 (2017) 『大学生のための異文化・国際理解』 丸善出版
- 権 寧俊 [編著] 『東アジアの多文化共生』 誠信書房
- 駒井洋 (2006) 『グローバル化時代の日本型多文化共生社会』 明石書店

《フィールドワーク対象者》

台湾人女性（来日 40 年）

インド人女性（来日 8 か月）

トーゴ人男性（来日 9 か月）

モンゴル人女性（来日 20 年）

中国人男性（来日 5 年）

韓国人女性 2 名（来日 20 年、来日 5 年）

ネパール人女性（来日約 10 年）

**9 : その他**